

時空散走*iwaki*

久之浜
(久ノ浜駅)



11 大須賀瘦玉夫人の碑 (鷹の巣山・共同墓地内)

瘦玉とは明治時代に活躍した漢学者・教育者・郷土史家の大須賀筠軒(1841～1912)の妻・茂登(1846～1878)のことです。大須賀次郎左衛門(五郎丸)家の8代目で、筠軒(神林復所の三男)は婿養子でした。漢詩、書画、絵に通じていましたが、残念なことに肺病で33歳の若さで亡くなりました。

10 波立寺・弁天島

寺伝では大同元年(806)、徳一大師が海上鎮護を念じ、波から出立した薬師如来(波立薬師)を安置して創建したといわれます。眼前の395号線(四倉久之浜線)を超えると弁天島がありますが、人食いの鰐鯨が美青年に化けて寺娘を誘い出して食い殺したという伝説があります。「鰐が淵」といい、悲恋に苦しむ若者が飛び込み、遺体が上がらなかったとか。

9 波立海岸展望台

西行歌碑、内藤露沾歌碑があります。波立は美しい玉砂利の海岸ですが、玉砂利を持ち帰ると眼病になるという伝承があります。

田之網に住んでいた漫画家・武内つなよし

漫画『赤銅鈴之助』の作者・武内つなよしは横浜出身で日曹工業で働いていましたが兵隊に召され、千島で終戦を迎えました。戦後は田之網・富久浜炭鉱で炭鉱夫をしたり、山仕事をしていました。赤銅鈴之助の必殺技「真空斬り」は木の伐採音からイメージして誕生したといわれます。昭和27年(1952)に上京し、漫画家デビューを果たしました。

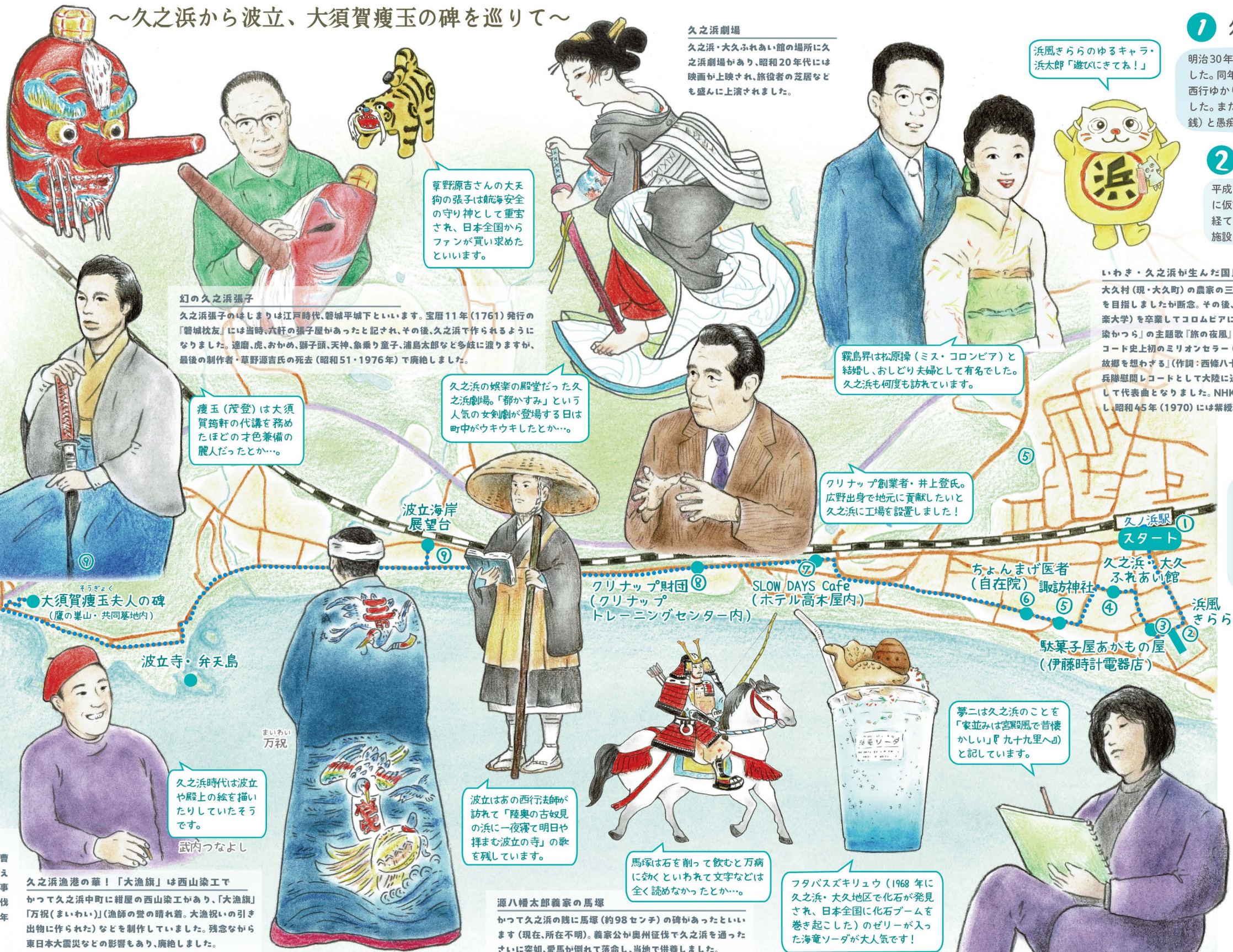
8 公益財団法人クリナップ財団 (クリナップトレーニングセンター内)

日本初のシステムキッチンを開発したクリナップの創業者・井上登(1920～2008)は昭和32年(1962)、久之浜工場(現・クリナップトレーニングセンター)を開設しました。2012年には震災復興支援としていわきや福島の若者を支援するクリナップ財団が設置されました。

距離: 約10キロ サイクリング所要時間: 約60分 ウォーキング所要時間: 約150分

幼馴染のあの海で、誰か故郷を想わざる

～久之浜から波立、大須賀瘦玉の碑を巡りて～



久之浜劇場

久之浜・大久ふれあい館の場所に久之浜劇場があり、昭和20年代には映画が上映され、旅役者の芝居なども盛んに上演されました。

濱風きららのゆるキャラ・浜太郎「遊びにきてね!」

1 久ノ浜駅

明治30年(1897)8月に日本鉄道の駅として開業しました。同年10月にはさっそく幸田露伴が東北取材で西行ゆかりの波立寺を訪ねましたが、あいにくの雨でした。また富岡行きの人力車の値段が高い(一里30銭)と愚痴を『うつし系日記』に記しています。

2 濱風きらら

平成23年(2011)9月、久之浜第一小学校敷地内に仮設店舗としてオープンした「浜風商店街」を経て平成29年(2017)4月にコミュニティ商業施設「濱風きらら」がオープンしました。

いわき・久之浜が生んだ国民的歌手・霧島昇

大久村(現・大久町)の農家の三男で、久之浜第一小学校卒業後、上京してボクサーを目指しましたが断念。その後、音楽に目覚め、苦学して東洋音楽学校(現・東京音楽大学)を卒業してコロムビアに入社しました。昭和13年(1938)に松竹映画『愛染かつら』の主題歌「旅の夜風」をミス・コロムビアの松原操と吹き込むと日本レコード史上初のミリオンセラー(120万枚)に。また昭和15年(1940)発表「誰か故郷を想わざる」(作詞: 西條八十/作曲: 古賀政男)は離れて売れないと判断され、兵隊慰問レコードとして大陸に送られたが望郷の念に駆られた兵隊たちが愛唱して代表曲となりました。NHK紅白5回出場、生涯で3000曲をレコーディングし、昭和45年(1970)には紫綬褒章を受章しました。

3 駄菓子屋あかもの屋 (伊藤時計電器店)

戦前は夏井屋商店という「あらもの(荒物=日用雑貨)屋」で戦後に時計、電器なども扱うようになったとか。店名は「荒物が詠った説」や「アカ(煙のこと)の種や苗を扱ったから説」などがあります。久之浜のこどもたちの楽しい「たまり場」です。

4 久之浜・大久ふれあい館

鉄筋コンクリート3階建てで東日本大震災の教訓を後世に伝える資料室などが設けられています。津波発生時には同ビル周辺の住民約260人の緊急津波避難ビルとなり、3日分の水と食料等を保管した備蓄倉庫、非常用発電設備などがあります。

5 諏訪神社

社伝では康平6年(1063)勧請といわれ、社殿は貞享元年(1684)、磐城城主・内藤義概公の造営です。明治40年(1907)、当時24歳の竹久夢二(1884～1934)が読売新聞の連載で東北取材し、神社をスケッチしています。また神社前の駄菓子屋が車夫で四倉まで人力車で向かいました。

久之浜の名刺・龍光寺

寺伝では大同元年(806)、徳一の開山で、建長7年(1255)、執権・北条時頼が中興したといわれます。境内に大須賀次郎左衛門(五郎丸)の碑があります。『御城と船戸』(大須賀良之助)によれば大須賀家は戦国時代、大久城主で岩城家に仕えていましたが岩城家が関ヶ原で没落すると久之浜・船戸に隠棲しました。江戸時代初期に海外と密貿易をしていた紀伊(和歌山)の紀三太夫が難船して久之浜に漂流し、それを助けたことで五郎丸も密貿易を始め巨万の財を蓄えたといわれます。2代目次郎左衛門が初代の供養として享保15年(1730)に銅造地藏尊を建立しています。

草野源吉さんの大天狗の張子は航海安全の守り神として重宝され、日本全国からファンが買い求めたといわれます。

幻の久之浜張子

久之浜張子のほしまりは江戸時代、磐城平城下といわれます。宝暦11年(1761)発行の『磐城枕詞』には当時、六軒の張子屋があったと記され、その後、久之浜で作られるようになりました。連鹿、虎、おかめ、獅子頭、天神、象乗り童子、浦島太郎など多岐に渡りますが、最後の制作者・草野源吉氏の死去(昭和51・1976年)で廃絶しました。

瘦玉(茂登)は大須賀筠軒の代講を務めたほどの才色兼備の麗人だったとか。

久之浜の娯楽の殿堂だった久之浜劇場。「都かすみ」という人気の女剣劇が登場する日は町中がウキウキしたとか。

霧島昇は松原操(ミス・コロムビア)と結婚し、おしどり夫婦として有名でした。久之浜も何度も訪れています。

クリナップ創業者・井上登氏。広野出身で地元で貢献したいと久之浜に工場を設置しました!

クリナップ財団⑧(クリナップトレーニングセンター内)

SLOW DAYS Cafe(ホテル高木屋内)

ちよんまげ医者(自在院)諏訪神社

久之浜・大久ふれあい館

濱風きらら

駄菓子屋あかもの屋(伊藤時計電器店)

夢二は久之浜のことを「家並みは宮殿風で昔懐かしい」『九十九里へ』と記しています。

フタバスズキリュウ(1968年に久之浜・大久地区で化石が発見され、日本全国に化石ブームを巻き起こした)のゼリーが入った海産ソーダが大人気です!

馬塚は石を削って飲むと万病に効くといわれて文字などは全く読めなかったとか。

源八幡太郎義家の馬塚 かつて久之浜の地に馬塚(約98センチ)の碑があったといわれます(現在、所在不明)。義家公が奥州征伐で久之浜を通ったさいに突如、愛馬が倒れて落命し、当地で供養しました。

6 ちよんまげ医者(自在院)

明治初期、自在院の片隅に庵を結び、診療所を開設した「ちよんまげ医者」こと村岡昌敦がいました。笠間藩の御典医でしたが明治維新で失職し、郷里の久之浜に帰りました。白馬に跨って笠間から帰る途中、戊辰戦争の被害で貧窮する人々を見かけるたびに藩の奉還金を施し、解剖図の巻物以外は何も残らなかったという人情味のある医者でした。村岡家の後裔は医療関係者が多く、久之浜の地域医療に多大な貢献を果たしています。

7 SLOW DAYS Cafe (ホテル高木屋内)

店名は「震災復興でゆっくりと日々変わりゆく町の姿をこの町で見守っていきたい。子供たちに町で遊んだ記憶を残したい。町にきた人の居場所になりたい」という願いが込められています。